



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくらいい
TEL&FAX:0744-43-7773
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail: lets@some.jp

平成29年3月

うるわし通信

「なら文化祭2017」がやって来た！さあ桜井でも始めよう

「国民文化祭」と「全国障害者芸術・文化祭」が全国初の一体開催で、本年奈良県内で9月1日から11月30日まで実施されます。「障害のある人もない人もともに暮らしやすい社会づくり条例」を踏まえた文化・芸術の祭典を具体化しようとする目的からです。

桜井もこの機会を活かして企画を具体化し今後の継続的な文化活性化に繋げていく必要があります。うるわしの桜井をつくる会は、市民が自発的に立ち上がって桜井を良くしたい、活力ある桜井にしていきたい、ただその一点においてあらゆる立場を超え横断的に手をつないで結成されたもので、おおくの市民が既に活動を立ち上げておられるその志をつなぎ、点を線に、線を面にする活動がこの会の目的です。文化面においても《なら文化祭》を契機に、文化活動に取り組む諸組織の連携を推進したいと考えています。

今回のテーマの1つである、「日本文化の源流を探る」や「文化の今を楽しむ」については、「桜井記紀万葉プロジェクト推進協議会」活動の展開を踏まえて、芸能発祥の地・桜井としての「能楽」や「鼓の里」の各種イベントが予定されています。

今回のマスコットキャラクターは、せんとくんが和服姿で小鼓を持っている姿で、まさに鼓の里を象徴する姿です。「鼓の里」である桜井市でもこの機会に市民も能楽に親しみ、自らも文化的創造活動に参加するよう機運を高めていきたいと思えます。

文化は単なる遊びではなく生きる活力の源泉です。被災地でも音楽演奏を聴いて、人びとが勇気をもたらすと元気づけられる例を多く聞きます。桜井でも、市民が文化の交流と創造に積極的に参加し、地域が元気になるよう組織的、継続的に民も行政もともに取り組んでいかなければなりません。

国民体育祭の場合では、数年前から選手育成や、地域との交流のための論議や具体的取組みがされていたと思えます。しかし、今回の《なら文化祭2017》への県民・市民の関心はそれほど高くありませんし、盛り上がりもまだまだ乏しいように感じます。

また「障害のある人とない人が共に」と呼びかけはされていますが、具体的な内容はまだこれからのようです。文化庁が呼びかけている2020年オリンピック・パラリンピック文化プログラムでも障害者との共生を入れることが必須条件になっています。ユニバーサルデザインを地域に定着させる機会でもあります。勿論「地域の伝統文化を活用した観光振興・地域活性化事業」もさらに強気に展開するチャンスです。9月まであと6か月となりました。皆様、今すぐ何か自分で出来る文化活動を始めようではありませんか。

うるわしの桜井をつくる会 会長 堀井 良殷

*鼓の里：能楽を演じるのに不可欠な楽器である「鼓」を製作する名工が、かつて多武峰に多く住んでおり、「多武峰」「折居」「おとわ」などと呼ばれる名器が伝わる。談山神社は大和能（猿）楽4座が新作を競演した所でした。



子どもの貧困について【現状を考える学習会開催】

うるわし通信57号で、国や県の「子どもの貧困」対策の諸制度や桜井市の概況と、桜井での子ども食堂の取組みを紹介し、県の「子どもの貧困対策計画」の具体的実施に関心をもっていきたいと述べた。うるわしの会では、昨年12月22日に「子どもの貧困について考える集い」を開催したので、その紹介をおこなうと共に、県は平成29年度に「子ども食堂」に関する予算措置を新規に実施すると報道されていたので、再度「子どもの貧困問題」について考えたい。

参加者は、社会福祉法人飛鳥学院の河村理事長をはじめ市内で子ども食堂に取り組んでいるメンバーや、子どもの問題に関心を持つ10数名が参加し、桜井での課題について日頃の取組みや問題意識を出し合いながら意見交換が進められた。

河村氏は、児童養護施設を運営されている立場から、地域での子どもの居場所づくり（拠点）を設けることの重要性を指摘され、そのための方策として教室の空き室の利用も含めて居場所をつくる必要性、また学校と保護者、地域の間をバーベキューの串のような役割をになうソーシャルワーカー（だんどり屋さん）を設けて、学習支援などの取組みを進めることが必要と提起された。

民生委員の方からは、高齢者のふれあいカフェなどの取組みを民生委員で実施しているが、子どもの居場所づくりはこれから必要と意見が出された。

また、現在大福・吉備地域でおこなわれている子ども食堂について、概要の説明（子どもの参加状況・支援者の活動・運営経費等）と共に、市内の他地域での子ども食堂の活動についても紹介を受けることが出来た。

市会議員の方からは、今日の非正規雇用などの増加が社会的貧困を増大させ、子どもの貧困につながっていると話され、親の就労対策のことも大切と提起があった。ほかの参加者も、子どもの虐待と貧困問題はつながっていると提起もなされた。

司会者より、関西での「子ども食堂の新聞記事」や「奈良県子どもの貧困に対する支援計画」の資料を提起し、今後5ヶ年計画で県の数値目標の下、支援計画が取り組まれるので、それに合わせて桜井市としてどのような取組みが計画にされるのか注目していく必要があると提起があった。

虐待に関わって子どもの様々な状況が存在することを再確認し、今後の子育てや貧困問題に関わる大きな課題があることが提起された。特に、子どもの貧困に対応するシステムづくりが未整備な状況となっていることが課題と提起がされた。意見交換では、子ども食堂の取組みについて、「どのような子どもを対象とするのか」「開催状況や参加費用」「だれがそれを運営しているのか」などの質問が出され、説明がおこなわれた。

河村氏より、飛鳥学院の取組みの現状、相談事業の対応など、現場の取組みも紹介を頂き、専門機関として果たす役割の重要性を強調され、学校も積極的に本組織との連携が求められていると話された。

最後に司会者より、今回の意見交換の場を継続して、桜井での子どもの貧困について考えていくようにしたい。今後は、県の「子どもの貧困に対する支援計画」の学習をおこなうような機会を設けていきたいと提起された。うるわしの会では、「県の支援計画」についての学習会を5月中旬に開催し、県の予算化がおこなわれる「子ども食堂」をはじめ、子どもの居場所づくりについて、関心を持っておられる方々とその具体化を考える機会を持つことを計画している。

（報告 楠木）



学習会の様子

安倍の歴史を語る会

浅川 肇

歴史部会《現在は敗者に学ぶ歴史の会(別称：秘史の会)と改称》は1年間にわたり「安倍の歴史を語る会」を催した。

まず、平成27年11月14日、桜井市の歴史の中で安倍地区の歴史が欠落または省略されがちであり、市民活動としてこれを補いたいと活動方針を定め、その日のうちに橋本区の米田昌徳氏(以下すべて敬称略)と会い、翌年2月からスタートすることとした。

第1回 平成28年2月20日 講師：米田 昌徳

橋本の地名の謎。近くに川もないので本来橋でなく端ではなかったか。また、小字名は青木^{はし}麿寺を中心に名づけられたかと考察。陰陽家安倍清明の影響もあるなど興味深い話だった。参加者5名

第2回 平成28年4月23日 講師：楠木 克弘

大福地域の古代を探索。銅鐸発掘や百濟大寺の資料、そして横大路・中つ道・橘街道・山田道など古代の道路についての説明。

第3回 平成28年6月18日 講師；石井 一好

戒重の歴史を精密な考証で語り、一同感銘。参加者7名

第4回 平成28年8月27日 講師；石井 一好

『芝村騒動』芝藩の法外な重税に苦しんだ農民。遂に庄屋をはじめ、各村の村役たちが京都町奉行所へ直訴。事は江戸幕府が直接裁断することとなったが、1年8ヶ月を要し、牢死する者37名、死罪1名、遠島4名、追放32名という極刑に処せられた。吉備の人3名も牢死した。その後、関係各地では義士として現在に至るまで毎年供養されていて、吉備では地元の薬師寺で毎年9月15日読経供養が行なわれている事実など、講師の綿密な現地調査が光り「秘史の会」の圧巻であった。参加者は10名となった。



供養の墓碑(吉備・薬師寺境内)

第5回 平成28年10月29日 講師：石井 一好

『伊能忠敬の日記』幕末期、日本地図を作製のため、桜井各地を測量した日記を解説。

第6回 平成29年2月18日 講師：浅川 肇

談山神社の前身、多武峰妙楽寺の歌舞『延年』は山田猿楽の源流と歴史資料から考証。

全6回を通じて、歴史から消え去ったもの、不当に抹殺されたものに焦点をあてた。企画から充分時間をかけ重厚な内容となり、今後の地元史の一資料となり得るとあえて自讃したい。

6回の会を終えた後、続けてほしいという有難い声を頂きました、また新たな企画を考えてみます。

第5回新春交流昼食会報告

1月29日(日)12時から「あるぼーる」で開催しました。今回は30名の方々の出席があり、会長のウェルカムスピーチの後、古代衣装をまとって登場した縄文(谷真由美)さんから、山上憶良や有馬皇子の万葉歌、古事記に残る倭建命の望郷の歌の朗誦がありました。朗々と読み上げる歌声が館内いっぱいに拡がり、参加者を千年の太古に誘っていただきました。また、恒例の抽選会は参加者全員に素敵な景品が当たり、大いに盛り上がり楽しいひと時となりました。開催にあたり会員の皆様方からの景品提供をはじめ会場準備等、多大のご協力をいただき有難うございました。



平成29年度 桜井記紀万葉プロジェクト推進協議会への提案

うるわしの桜井をつくる会から2件の提案をしました。

①地域歴史学習会

平成27年度から市内小学校6年生を対象に学校周辺の貴重な文化遺産や遺跡を自分たちの目で確認し、故郷に誇りを持てる人物に育ってもらうことを願って、地域歴史学習会を進めてきました。今年度から桜市観光ボランティアガイドの会との共同提案で引き続き市内全校を訪ねて取り組んでいきます。

②キッズガイドの調査研究

子どもたちの目でとらえた地域情報を子供たちが来訪者に説明する。遺跡や文化遺産に限定せず、地域の伝統的な産業(農業 林業 商業 工業 流通 交通)やタウン誌の取材・編集(るるぶの子供版)等広いジャンルでの活躍を期待しています。全国ではかなり成果を上げている地域もあるので、今年度は先進地の調査研究をして導入を図っていきます。

お知らせ

●図書館友の会

3月の読書会は、中原中也詩集を読みます。

愛する者よ、無垢なる日々よ——。生と死のあわいを漂いながら、失われて二度とかえらぬものへの、あふれる惜別の想いを、ノスタルジックにうたい続けた、夭折の天才詩人

日 時 3月28日(火)午後1時30分から

場 所 まほろばセンター市民活動交流拠点

問い合わせ先 浅川 肇 TEL: 090-1961-6345

友の会会員以外の参加も歓迎します。



【編集後記】 本会新春交流会でいろいろな方々と顔合わせする機会となった。会長の「米国第一主義」のトランプ政権誕生は、今後の世界情勢を一層複雑にするとの提起は、その後地球規模での大きな潮流を引き起こしてきている。地球的規模で考え、地域で行動する取組としたい。(K・K)

うるわし通信発行人
高瀬 安男
TEL: 090-1678-9157